

## 報告事項（2）

### 上相川地区の分布調査について

#### 1 令和3年度の分布調査の概要

上相川地区は16世紀末～17世紀初頭にかけて、金銀の採掘が始まる相川金銀山の成立に伴って形成された鉱山集落遺跡である。遺跡は、標高150～200mの段丘上及び緩斜面地に立地しており、東西約800m、南北約300m、面積は約20haに及ぶ。慶長5(1600)年に「金山町当起(登記)」と記述があることからこの頃に成立したと考えられ、その後、相川金銀山の発展と共に最盛期を迎えましたが、水害や金銀産出量の減少などにより、賑わいの中心は次第に現在の市街地の方へと移っていき、明治末期にほぼ無人となった。(平成25年3月史跡追加指定)

調査地点は国史跡佐渡金銀山遺跡内の初期集落域である上相川地区の内容確認に伴うものであり、調査が未了の約21,000㎡の範囲の詳細分布調査を行う。

#### 2 調査期間

令和3年7月12日～11月中旬までを予定

#### 3 調査体制

佐渡市教育委員会が調査主体となり、新潟県教育庁文化行政課から指導を受け、実施中。

#### 4 調査成果の概要（速報）

- ①対象地の篠竹及び下草刈、枯死木の伐採を実施中。対象面積の約1/3の伐採が完了。
- ②現在、床屋町・鍛冶町を調査中。
- ③床屋町の専念寺下の沢に面した平坦面から、複数の墓石及び石造物を確認した。墓石の年号は「明和元年(1764)」「弘化(1843-48)」「文久三年(1863)」などが確認できる。
- ④床屋町から田町に向かう東西方向の道に沿って、短冊形の区画が整然と並んでいることを確認した。また、平坦面に沿う南北方向の道も確認できた。区画の規模は均一ではなく、バラツキがみられる。
- ⑤道と敷地の境界に簡易な石積みが見られる箇所がある。
- ⑥深さ4m程の井戸1基を検出した。
- ⑥採取遺物は近世陶磁器が多く、17世紀初頭以降の製品が見られるが、17世紀代のものが多い。唐津焼(絵唐津大皿・小皿・播鉢)、伊万里焼(碗・皿)、備前焼(盤・播鉢)、志野焼(皿)など。破片が多く、完形品は極めて少ない。
- ⑦選鉱に関係する扣石や石磨が点在している。石積みに転用されている例もある。
- ⑧3～5cm程のズリが分布している範囲がある。
- ⑨鉱滓、羽口など製錬鍛冶に関する遺物は未発見。

#### 5 調査成果の公開

令和3年11月頃に現地公開を予定。